

# 序

本書の前身である見上 彪監修『獣医微生物学 第3版』は、その分かりやすい記述と充実した内容から、多くの学生・研究者に愛されてきた。その後出版された公益社団法人日本獣医学会微生物学分科会編（編集者代表 福士秀人）『コアカリ獣医微生物学』も、コア・カリキュラムというこれまでにない体制に合わせて必要最低限の事項に絞っただけでなく、第3版以降の最新の知見も多く取り入れて、コンパクトながらも主要なエッセンスが整理された名著である。しかし一方では、コア・カリキュラムとして学ぶべき科目が整理され、それぞれに準拠した教科書の整備が進んだ結果、微生物学をもう少し深く知りたいという意欲的な学生や、自身の研究対象以外の微生物についても必要に応じて最新の信頼できる情報源が欲しいという教員・研究者からの要望が出てきた。

これらの希望を叶えるには、第3版の全面改訂による第4版の創出が不可欠となった。しかし、コアカリ準拠の教科書が上梓されてから間がなく、それを補完すると位置づけられた第3版の改訂が本当に必要なのかという問いに対して、しっかりとした意義づけが必要であった。そこで、前出の福士秀人教授と熱い議論を交わすことになった。その結果、コアカリを補完すると謳うためには、第3版を凌ぐ詳しい記述も含まれた内容が必要であること、しかしページ数の増加は価格の上昇を招くことから最小限にしなければならない。一方、この10年間で他の専門科目別教科書が充実してきており、第3版にあった免疫学、原虫学、統計の部分はそれぞれの専門教科書に譲り、そのページ分を細菌学、ウイルス学、真菌学の増補分に充てれば、さらに詳しい記述が可能となるだろうと意見が一致した。その結果、第3版では盛り込めなかった詳しい記述によって、専門家でも重宝するような教科書にして、コアカリ獣医微生物学と住み分け可能な教科書を作ろうということで互いに同意した。

さて、第4版に向けた改訂を進める上でもう1つの課題は、それまでの編集代表または監修の見上 彪先生からの引継事項である。それは、できるだけ若い方に執筆を任せ、次代の人材を育成してほしいということであった。そのため、これまで続けて執筆して下さった多くの著名な先生方に代えて、新たに多くの若い教員・研究者に加わって戴いた。もしかすると、これまで執筆戴いた先生方には失礼と思われたかもしれないが、日本の獣医微生物学分野の未来のための若い人向け on the job training だったとご理解戴きたい。

このように基本方針が決まったところで、公益社団法人日本獣医学会微生物学分科会教育委員会の推薦を受けて、編集担当のメンバーを遠矢幸伸、福士秀人、堀本泰介、村瀬敏之の4氏に決定した。そして、国内外の獣医系大学および研究機関で、微生物学、感染症学、衛生学などの教育・研究に携わっていらっしゃる新進気鋭の若手の学者を中心に各分野の担当著者を推薦戴き、執筆作業へと進めた。高いレベルの内容の充実と最新の情報を求めたため、編集者からは随分厳しい要求を著者に対して行った。中には、折角執筆した原稿に全面書き直しを要求したこともあった。しかし、全ての著者がこれらの要求によく応えてくれたと感じる。今、全ての原稿が揃い、全体を通読していると、全ての著者のこの教科書にかけた熱意が伝わってくる。免疫学、原虫学等を除いて各人の執筆可能ページを増やしたことで、これほど著者が本気になるとは予想外の喜びである。当然のことながら、コア・カリキュラムに求められた内容は全て網羅した、コアカリに準拠した教科書にもなっている。一方、全体ページ数の増加は最小限と考えていたが、熱意のあまりやや増加してしまった。そのため、意に反して価格の上昇を招いてしまったが、出版社との協議を重ね、ギリギリの最低価格に設定した。定

価がキリの悪い半端な数字になっているところに、出版社の誠意をくみ取って戴きたい。

今回の改訂でもう1つ特筆すべき事柄は、細菌、ウイルス、真菌、いずれでも分類体系の大きな変革と整備がなされたことである。これまでは、多くの細菌で目や科が未確定であったものが、命名されたほぼ全ての細菌が門まで確定した。ウイルスでは、全てが8つの目に整理された。真菌についても同様に分類の修正が行われた。これはいうまでもなく微生物ゲノム解析技術が進み、ゲノム全体の比較が可能になった成果である。本書は、この点を考慮し、特に各論においては、最新の分類にできるだけ準拠するよう努めた。各論の構成や掲載される順番も最新の分類を参考にしている。

最後に本書が完成できたのは、全ての著者が忙しい中に時間を作り、最新の成果を調べ執筆にあたり、そして全ての編集者が細部にわたる調整と修正を行い、さらに度重なる大きな修正に根気よく対応してくれた出版社の担当の努力があつてのことである。ここに全ての関係者に御礼申し上げたい。

このように多くの方々の英知を結集して作り上げたが、文体、内容、深さ、用語、簡潔さなどの不統一、不備などお気付きの点があるかもしれない。その際は、忌憚のないご意見、ご批判を是非戴きたい。

最後に本書出版に尽力された文永堂出版(株) 代表取締役 福 毅氏、担当の松本 晶氏ならびにスタッフの皆様に感謝する。

2018年6月

編集者代表 関崎 勉